

もう一度あの星に……

柏木千鶴子

岐阜県・六一・主婦

よかった。癌でなくて本当によかった。

去年の夏、私を震撼させたあなたの体調。タール便から潜血の発見。胃潰瘍と診断され、よくある病氣と軽く受け止めたが、手術の要ありとの所見には一瞬間の中がまっ白になり、波間にただよう木の葉のような自分を感じました。あなたの命をこれ程身近に感じた事はありません。手術室へ運ばれて行くあなたを見送った真夏の朝。それがどんなに不安でつらいものか、一二年前同じ手術の私を見送って下さったあなたの心境をつくづく味わいました。今度は私の番。心して私も温かく看護してあげねば。放置しておけばやがて癌に移行するとの診察通りその芽は小さな潰瘍にとどまり、まさしく神仏の加護に身が引き締まりました。つらい治療の経過にも耐え、一カ月を待たず退院した優等生の患者でした。

これからはひびの入った体を労り合い、二人で老後をゆっくり歩いて行きましょう。

存在感の大きさに改めて謝し、その思いが言動に表れていたのでしょうか。

「いい夫婦だねえ」と、どの病室へ移っても言われましたね。義姉さんはあなたが良からよと優しく言って下さるけど、娘は事もなくお父さんが我慢しているからだよと言いました。気長く何事も足踏みして待っていて下さるのをいつも見ている娘の目が正しいでしょう。私をいつも一生懸命にして引っぱって下さって本当に有難う。快氣の内祝いもすませ私への看病のプレゼントを尋ねたあなたに、ただ一つ贅沢を聞いて下さい。一度でいいから結婚前のように都会の雑踏で待合せ、決まりのテレビ塔までのコースを再現して下さい。高層ビルで埋め尽くされた都会の空は狭くなったでしょう。でもそこに輝く星は新しい門出に希望を与えてくれました。

三十数年間にはさまざまな出来事がありました。今、出会いから見つめてくれたあの星のまたたきに出会いたいです。ぜひお付き合い下さいね。夢のデートは私の宝物です。